

# Scramble Shot

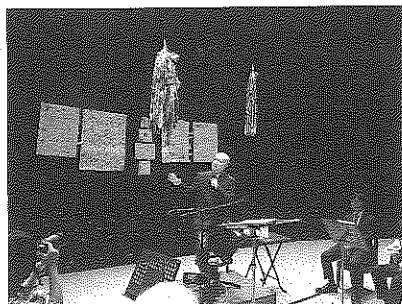
幕を開ける。4月3日の定期Bではシュニトケの「合奏協奏曲第4番」、「交響曲第5番」と、ベートーヴェンの「交響曲第5番《運命》」を、同8日の定期Aではマーラーの「第7番」を披露する。このところ絶好調の都響、今年のラインナップの特色は、群を抜いたその豪華な招聘指揮者たちだろう。定期演奏会だけ月を追って紹介していこう。5月が中堅で活躍の著しいベルトラン・ド・ビリーとトーマス・ダウスゴー、6月はピアニストとしても活躍しているアンドリュウ・リットンとオレグ・カエターニ、9月が下野竜也とオリヴァー・ナッセン。10月には、合唱のヴィルトゥオーゾ、スウェーデン放送合唱団をその首席指揮者のペーター・ダイクストラと共に招聘し、モーツァルトの《レクイエム》ほかを演奏する。11月は大野がフランス音楽を中心としたプログラムを聴かせ、12月に入って、首席客演指揮者を延長したヤクブ・フルシャが登場して、マルティヌーの「交響曲第2番」とマーラーの「交響曲第1番《巨人》」を振る。そして12月はバロック音楽で評価の高いマルク・ミンコフスキがブルックナーを振る異色のプログラム。年が明けて1月は終身名誉指揮者の小泉和裕でソリストがヴァイオリンのイザベル・ファウスト。メンデルスゾーンの「ヴァイオリン協奏曲」とR.シュトラウスの《家庭交響曲》を演奏する。そして1月は、ニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督、アラン・ギルバートが登場し、シベリウスの交響詩と、ラインドルフと自らがアレンジしたワーグナーを披露する。シーズンを締めくくるとは桂冠指揮者エリアフ・インバル。3月24日定期Bでブリテン《シンフォニア・ダ・レクイエム》とバーンスタインの交響曲を、そして年度最後の同29日定期Aは、韓国の名手、クン・ウー・パイクをソリストに迎え、モーツァルトの「協奏曲第27番」を、メインはショスタコーヴィチ最後の「交響曲第15番」で締めくくる。各会員券の発売は、11月17日から都響会員の先行発売を経て同25日に一般発売される。問合せは03・3822・0727

## News 井上道義が演奏活動に復帰

「咽頭がん」治療のために4月から活動を休止していた指揮者の井上道義が10月2日、復帰に向けて自らその想いを語

る会見を行った。会場である東京芸術劇場コンサートホールのステージは、2007年から音楽監督を務めるオーケストラ・アンサンブル金沢から贈られた千羽鶴や、病巣がみつかる直前に首席指揮者に就任したばかりの大阪フィルハーモニー交響楽団が集めた寄せ書きなどで飾られ、オーケストラの配置を模して並べられた座席は、集まった大勢の報道陣や関係者で埋め尽くされた。現在は放射線による治療も終了し、転移の心配もないと告げられたというマエストロ。「10キロ痩せて20代の体型に戻った」と笑顔を見せるも、闘病生活については「苦しくて音楽さえ全く聴けなれなかった。それよりどうやったらこの辛い咳が治まるのか、安眠できるようになるのか、そればかりを考えていた。酷い痛みで水すら飲めず、胃腸によってかろうじて生きながらえた」と語り、一同に衝撃を与えた。その後、休止中の約6カ月間に断念した36公演について「ご迷惑をおかけした」と言葉をかけ、「2年前くらいから、もうやりたいことは全部やり尽くした気持ちでいた自分のことを神様はちゃんと見ていたのかもしれない。今はまだ馴染みの場所が異国のように感じられ、フワフワしたような気持ちが続いているが、自分がこうして生かされたことの意味を考え、与えられた仕事に丁寧に取り組みたい」と明かし、特に2年後をめどに完成させたいという舞台作品の作曲と、来年全国10都市13公演を予定している、演出に演劇界の鬼才・野田秀樹を迎えたモーツァルトのオペラ《フィガロの結婚》についての意欲を熱く語った。復帰後の初仕事は10月11日に鎌倉芸術館で行われるNHK交響楽団とのオリジナル企画「いざ、鎌倉への道」の第4弾。「楽員それぞれの音がちゃんと聞こえて真剣勝負になれるあのホールで、ブルックナーの『9番』をやるのが楽しみ」という。

(東端哲也)



会見で話す井上道義(10月2日)

## Concert 佐藤立樹「ピアノ・リサイタル」、よみうり大手町ホールで開催

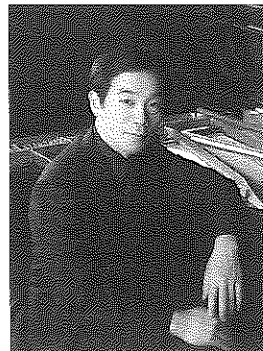
慶應義塾大学法学部卒業後、パリ・エコールノルマル音楽院ピアノ科に留学、同音楽院最高演奏課程を修了した後に、第4回「大阪国際音楽コンクール」第3位入賞という経歴をもつピアニストの佐藤立樹がリサイタルを開く。

「デビューリサイタルから10年の節目の今回は、特に一生涯弾き続けていきたい作曲家としてベートーヴェン、シューマン、ショパンを選びました」

2010年5月、リハーサル中にクモ膜下出血を発症するも後遺症なく、同年12月には復帰公演を開いた。長岡昌子、三浦捷子、故ジェルメーヌ・ムニエの各氏に師事。これまでに、ゴルコヴェンコ指揮サンクトペテルブルグ放送響、ヴァーレク指揮ブラハ放送響などと共演、国内各地でのリサイタルやレクチャー・コンサートシリーズも好評を博している。

「ロマン派の代表的な大作と共に、あまり弾かれないが、ベートーヴェンの創意があふれた22番のソナタも楽しんで頂ければ幸いです」と抱負を語る。リサイタルの詳細は以下の通り。

[公演情報] (日時) 11月16日14時(会場) よみうり大手町ホール ※13時40分からNHKアナウンサー渡邊あゆみ氏による「プレ・トーク」あり(曲目) ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第22番」、シューマン《クライスレリアーナ》、ショパン「ピアノ・ソナタ第3番」(料金) 3500円(当日券3800円) ※大学生2000円(前売のみ) (問合せ) 日本アーティストチケットセンター-03-3339-3339



佐藤立樹

News 東京交響楽団2015/16年シーズン主催公演ラインナップ発表  
東京交響楽団が来シーズンの主催公演ラインナップを発表した。今シーズンか